

令和7年第4回史蹟めぐり

厚木北地区の遷り変わりの痕跡を歩く

昭和100年の節目を迎え、本厚木駅北口周辺は新市庁舎建設が始まり、さらに大きく変貌を遂げつつあります。今回は江戸期から商業中心地として栄えた厚木神社周辺を中心にめぐり、現在に至るまでの街の移り変わりの歴史を再発見します。

【期 日】 令和7年9月14日(日)

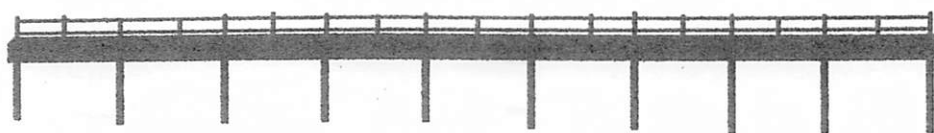
【集合時間】 午前9時

【集合場所】 厚木バスセンター10番線付近

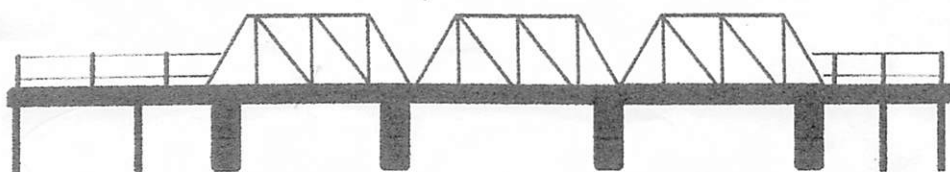
【行 程】 厚木バスセンター…厚木小跡記念碑……小田急相模川橋梁…厚木神社…烏山藩厚木役所跡(厚木町役場・市役所跡)…相模大橋…じょう橋記念碑…厚木の渡し…中央通り商店街…本厚木駅解散(12時頃)…徒歩

相模橋(通称じょう橋) 相模川 ～厚木と海老名を結ぶ橋～

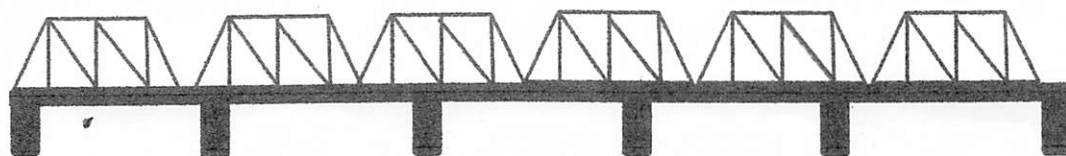
初代相模橋



二代目相模橋



三代目相模橋



明治41年10月に架設されて以来、昭和30年6月、現在の相模大橋が新設されるまで、厚木市の中心市街地と海老名を結んでいた橋で相模橋という正式名がありながら、地域の人々から「じょう橋」と呼ばれ愛されてきた橋です。

初代相模橋は大洪水で、二代目相模橋は関東大震災で大きな被害を受けましたが、その都度、地域の人々からの熱い願いを受けて復旧工事が行われました。

厚木北地区中心市街地の変遷	
明治4年7月14日 (1871年)	廃藩置県断行。厚木宿支配の烏山藩は烏山県となり、旧藩厚木役所は烏山県厚木出張役場となる。
明治4年11月14日	足柄県設置に伴い厚木村を含む愛甲郡域は同県の管轄区域となる。
明治5年11月24日 (1872年)	新政府の命令により、足柄県は従来の町村を廃止し大区小区制施行。厚木村は第3大区第2小区に組み入れられる。
明治9年4月18日(1876年)	足柄県廃止。愛甲郡は神奈川県に編入される。
明治11年7月22日 (1878年)	大区小区制が廃止され郡区町村編制法施行に伴い従来の町村復活。愛甲郡役所が厚木町に設置される。
明治22年4月1日 (1889年)	厚木町単独町制施行。旧烏山藩厚木役所(烏山県厚木出張役場)跡地に町役場設置。
明治35年4月 (1902年)	県立第3中学校(現厚木高校)が開校。天王大縄手の路地が「中学通り」と呼ばれるようになる。11月厚木小学校が天王町・仲町の中間西方水田を埋め立て移転。
相模橋(木橋)設置 明治41年10月26日 (1908年)	厚木・海老名間に初代相模橋開通。橋の設置により上町・天王町賑わい発展の礎となる。延長約240m、幅3.6m
明治43年8月10日 (1910年)	大洪水により流失、一時渡船復活。町民から早期復旧の要望が高く県が復旧に向けて工事着手。
二代目相模橋完成 大正2年2月26日 (1913年)	二代目県営相模橋完成。 位置:現あゆみ橋と同じ。構造:中央部分「鋼製ブラットラス橋」両端が木橋。地元の人々から「じょう橋」と愛称でよばれた。
大正8年6月28日 (1919年)	町内人口増加・市街地の拡大に対応するため新町名施行。本町(旧上町)・元町(旧横町)・弁天町・大手町・天王町・仲町・旭町(旧下町)
厚木繭糸取引所設立 大正11年5月 (1922年)	(株)厚木繭糸取引所設立。繭糸の取引が盛んに行われ、愛甲郡各村からの生産品がぞくぞくと厚木町へ集められて来た。
関東大震災でほぼ壊滅 大正12年9月1日 (1923年)	町内大半の家屋全半壊。相模橋の海老名側木橋損壊。厚木側木橋も同月15日の豪雨で流失。中央部分のラットラス橋のみ残し橋の機能損失。被災後の復興工事で中学通りを8mに拡幅整備、沿道に商店が建ち始める。

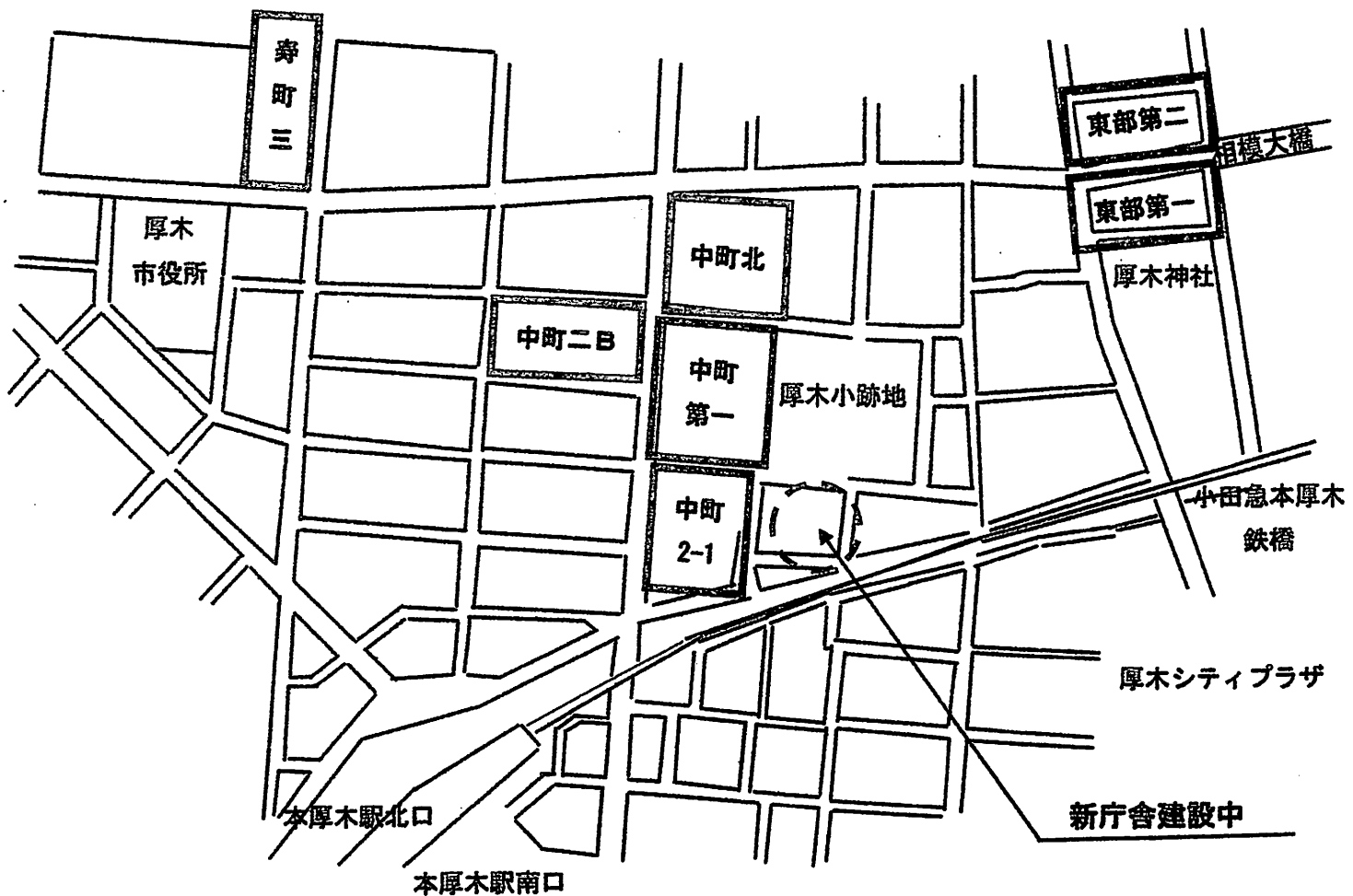
三代目相模橋架設 大正15年6月 (1926年)	相模橋復旧工事により、全面を「鋼製トラス橋」に改修完成。延長約240m、幅員5m。昭和中期まで厚木・海老名間を結ぶ唯一の橋として利用される。
小田原急行鉄道(株)開通 昭和2年4月1日 (1927年)	小田急開通に伴い「相模厚木駅(現本厚木駅)」開業。地元の有力者中野再五郎氏を中心とする駅北口改札設置運動が展開され改札が南北に設置される。また中野氏が私財を投じて中野道路(現厚木一番街)を整備。駅北口発展に寄与。
中央通り商店街拡幅計画 昭和24年 (1949年)	有志により「中央通り商盛会」結成され、中央通りを通過する国道246号の整備に伴い商店街の拡幅計画が検討される。
相模大橋架設位置紛糾 昭和28年 (1953年)	老朽化した相模橋に代わる「相模大橋」の設置位置について県が8案を厚木町に提示。その内3案をもとに上町・天王町・中央通り各地元商店街は存亡の危機に立たされ将来の繁栄をかけて、それぞれが架設位置を主張し紛糾する。
市町村合併協議 昭和28年10月～ (1953年)	町村合併促進法施行(3年以内に町村合併促進)に伴い厚木町から周辺各村へ合併協議申し入れ開始。
相模大橋架設位置決定 昭和28年10月8日	架設位置A案(現在の位置)とB案(現あゆみ橋付近)2案で審議で町議会A案で議決。11月県議会議決。相模大橋架設工事着手。
相模橋老朽化 昭和29年3月 (1954年)	相模川の砂利乱掘により河床が低下し橋基礎部分露出、流失が心配され、橋の老朽化により自動車の通行が危険な状態となり廃橋決定。昭和38年全面通行止め、昭和39年解体撤去。
本厚木駅前土地区画整理 昭和30年1月18日 (1955年)	駅北口一帯の本厚木駅前土地区画整理事業着手。街区、道路等公共施設が整理され厚木市の玄関口にふさわしい街並みが整えられた。昭和35年(1960年)3月25日完成。
厚木市制施行 昭和30年2月1日	1町(厚木町)4か村(南毛利・玉川・小鮎・睦合)合併市制施行。市庁舎(旧厚木町役場)、人口3万1千2百95人。7月8日、依知村、中郡相川村編入。
相模大橋開通 昭和30年6月13日	橋と同線上沿線にある中央通り商店街発展の基盤となる。延長381m、幅員9m、ケルパー橋近代橋

昭和31年9月30日 (1956年)	荻野村を編入し現在の市域となる。面積92.69平方メートル、人口4万5千59人。
中央通り防災街区造成 昭和35年6月1日 (1960年)	防災建築街区造成法施行。過去度々大火災が発生して焼失した中央通り商店街を二級国道東京沼津線(国道246号)の拡幅整備と併せて防災共同ビル商店街に造成実施決定。
国道246号改修整備 昭和36年8月 (1961年)	中央通りを通過する二級国道東京沼津線(国道246号)、中央通り防災共同ビル商店街造成と共同施行。昭和39年3月31日完成予定。幅員(8.5m→18m拡幅・車道12m、歩道3m両側設置。)順次店舗の仮営業所への移転開始)
防災共同ビル商店街着工 昭和38年1月13日 (1963年)	防災共同ビル商店街A～Hまで8ブロックに分けて施工。第1期(B・Gブロック)工事開始。順次他のブロックも工事着手。東京オリンピック開会式(昭和39年10月10日)完成を目標に向けて国道246号改修工事とともに突貫工事で進められた。「厚木中央通り商店街」改称。
国道246号開通 昭和39年8月 (1964年)	二級国道東京沼津線(国道246号)東京・沼津間開通。海老名～相模大橋～中央通り商店街～船子方面へ。厚木市の中心市街地を国道129号が縦断し交通の要所となるが交通渋滞深刻化。
駅南口区画整理開始 昭和40年10月9日 (1965年)	本厚木駅南部地区都市開発改造5か年計画開始。施行面積28.9ha、移転家屋2百戸を超える厚木市始まって以来の大規模開発。
厚木バイパス路線決定 昭和41年4月 (1966年)	県央地区の渋滞緩和と東名高速道路へのアクセス道路として、国道129号(一部区間国道246号重複)厚木バイパス路線決定。(路線:金田～妻田東～水引)。市内中心市街地を通過していた2路線が移動。
相模小橋(もぐり橋)設置 昭和41年5月24日	相模橋跡地に地元の強い要望により相模小橋(もぐり橋)設置。現在は相模小橋撤去後「あゆみ橋」が架設されている。
中央通り防災街区造成完成 昭和42年5月 (1967年)	当時のあつぎ広報には「全国に例の少ない、鉄筋コンクリート3階建て商店街が県央厚木に出現した、国道東京沼津線をはさみ、全長300mにも及ぶ、その全貌はまさに延長式デパートである。」と記載された。

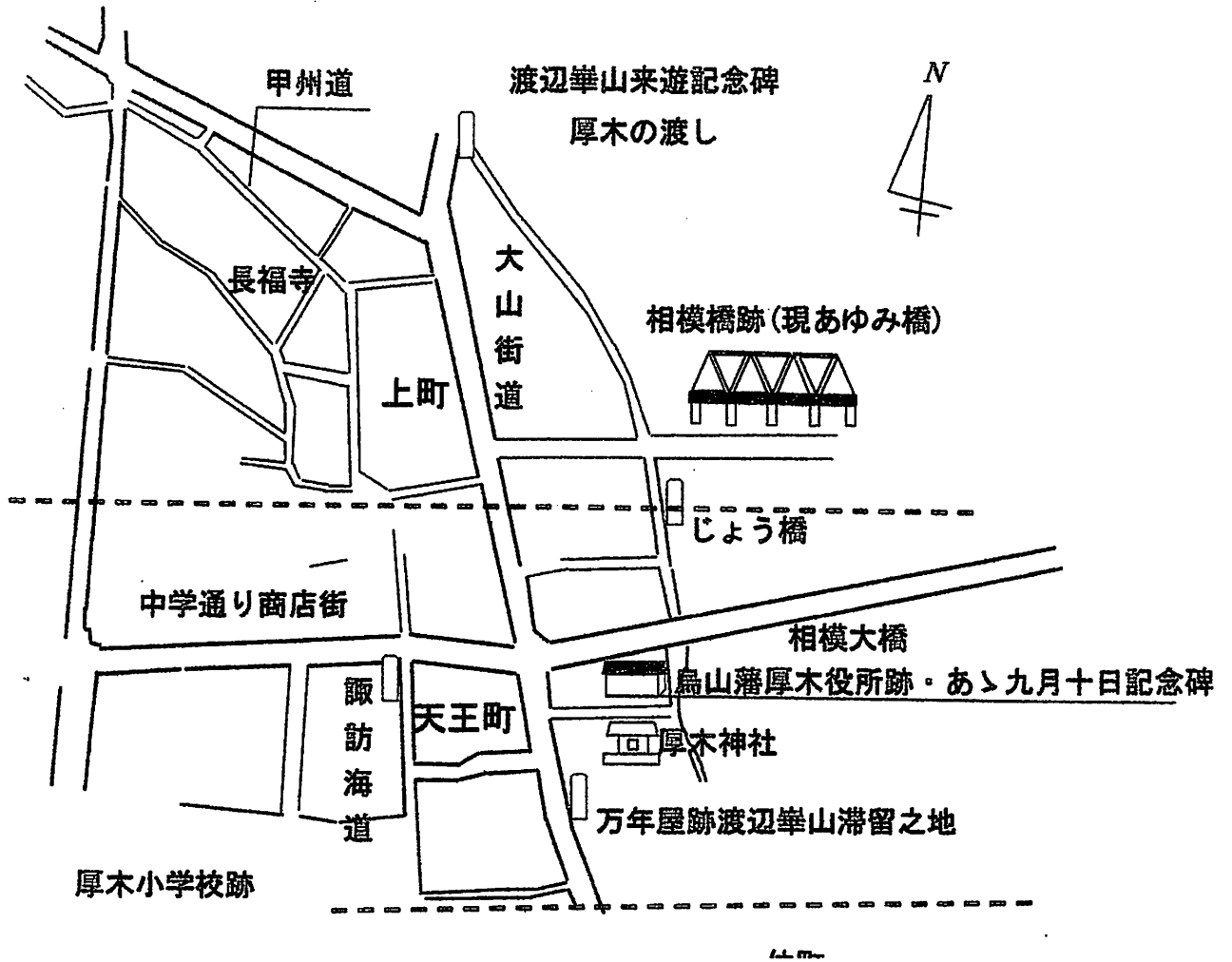
小田急相模川鉄橋架け替え 昭和44年2月 (1969年)	小田急電鉄(株)が老朽化と川砂利の大量採取による河床低下により基礎部分が露出し危険なため急遽橋の架け替えを決定。駅から橋までの線路変更のため駅南部土地区画整理との整合を図った。
都市インフラ整備 昭和45年～ (1970年)	人口急増に対応するため広域下水道整備に本格化。昭和50年(1975年)までに市街地水洗化を目指す。
市役所新庁舎完成。 昭和45年12月	中町3丁目地内に建設を進めていた市役所新庁舎が完成。烏山藩厚木役所設置以来、行政の拠点であった厚木町から移転。
小田急立体高架化 昭和45年～	本厚木駅の東西に2か所の踏切が南北を分断して交通渋滞解消のため市は「厚木市小田急線連続立体化促進協議会」設置。県に小田急線の立体化要望。
小田急相模川鉄橋完成 昭和46年7月13日 (1971年)	先行して上り線が開通。8月に下り線が開通。総延長1500m、橋長420m、幅8.4m
小田急連続立体化工事着手 昭和47年10月 (1972年)	小田急連続立体化(高架・踏切除去)工事計画概要 本厚木駅の建て替え、事業者:神奈川県・厚木市・小田急電鉄(株)、工事延長1570m、高架区間約1270m、駅ホーム長210m、ホーム幅11m(最大幅)、駅舎1096㎡、引上線210m1線、総工費36億7千万円
昭和49年12月 (1974年)	立体化下り線開通。上り線開通は昭和51年(1976年)1月。南北に踏切により2分されていた交通状態が解消された。
本厚木駅舎完成 昭和51年6月 (1976年)	1月に駅南口広場完成。6月駅舎完成により南北駅前広場を連絡する歩行者自由通路新設。昭和52年(1977年)10月駅北口広場完成。駅南部区画整理事業とともに着々と工事が進められた。

昭和55年～ (1980年)	昭和44年(1969)8月厚木小学校跡地利用対策協議会発足以来。本厚木駅北口中町1・2丁目、寿町、東町・厚木町の再開発計画が策定される。各地区都市計画決定を経て事業着手。 中町第一地区 中町第2-1地区 中町北地区 東部第一地区 東部第二地区 寿町3丁目 中町2丁目B地区 再開発事業の実施に伴ない駅北口周辺に大型商業ビル・マンションが建ち始める。個人の小規模店舗が徐々に減少し、厚木の商業中心の中央通り商店街もシャッターを降ろす商店が目立つようになった。
駅南部土地区画整理完了 昭和56年3月 (1981年)	駅南部の土地区画整理が完了し幹線道路ほか生活道路・下水道など公共インフラ施設、人が住みやす都市空間が整備された。
中町第一地区再開発完成 昭和56年12月	中町第一地区第一種市街地再開発事業完成 事業者:厚木市中町地区第一市街地再開発組合 完成施設:厚木ガーデンシティビル(ダックシティ・現イオン)
本厚木ミロード1開業 昭和57年3月(1982年)	小田急本厚木駅ビル完成、本厚木ミロード1開業。 平成6年(1994年)11月ミロード2開業。
中町第2-1地区再開発完成 昭和59年10月 (1984年)	中町第2-1地区第一種市街地再開発事業完成 施行者:厚木市 完成施設:中央図書館が入る厚木シティプラザ、バスセンター、地下道
中町北地区再開発事業完成 昭和60年5月 (1985年)	中町北地区第一種市街地再開発事業完成 施行者:神奈川県住宅供給公社 完成施設:厚木セントラルハイツ
東部第一地区再開発完成 昭和62年3月 (1987年)	東部第一地区第一種市街地再開発事業完成 施行者:東部第一地区市街地再開発組合 完成施設:リバーツイン厚木
寿町三丁目地区再開発完成 平成6年3月 (1994年)	寿町三丁目地区第一種市街地再開発事業完成 施行者:神奈川県住宅供給公社 完成施設:ルリエ本厚木

中町二丁目B地区再開発完成 平成6年3月 (1994年)	厚木中町二丁目B地区第一種市街地再開発事業完成 施行者:厚木中町二丁目B地区第一種市街地再開発組合 完成施設:厚木パークビル(アミューあつぎ)
東部第二地区再開発完成 平成6年10月	東部第二地区第一種市街地再開発事業完成 施行者:東部第二地区市街地再開発組合 完成施設:厚木リヴァージュ21
市役所新庁舎建設中 現在	中町2-2地区再開発事業。令和9年度(2027年)3月完成予定



大山街道厚木宿その1、旧上町・天王町概略図



1 厚木小学校跡地記念碑

厚木小学校開校記念日の歌

わがなつかしき学び舎の立ちたる月日めぐり来ぬ

いざもろともに歌ひつゝ 千代の栄えを祝はまし

昭和五十八年癸亥仲秋 厚木市長足立原茂徳書

【厚木小学校の歴史】

明治維新後、廃藩置県により厚木宿を支配していた烏山藩は烏山県となり、烏山県知事の指示を受けて明治4年(1871)長福寺(寿町)内に厚木小学校の前身である「成思館」の校舎が置かれました。

その後、公立の小学校となり明治35年(1902)11月に現在、厚木市保健福祉センター(中町1-4-1)が建つ場所に移転して以来、昭和45年(1970)現校舎(寿町3-15-34)に移転するまで、約70年間渡り多くの児童が学び卒業生を送り出してきました。

厚木小の校舎は関東大震災で倒壊しましたが、その後、復旧し寿町に移転するまで木造の校舎で授業が行われてきました。

昭和39年(1964年)6月1日児童数の増加により旭町5丁目に厚木第二小学校が開校し、厚木小から一部の生徒が第二小に移りました。

厚木小学校の移転後、跡地が本厚木駅近隣の商業地域でもあり、跡地の活用が検討され再開発事業の対象となり昭和50年代、市公共施設、大規模商業施設、バスセンター、地下道、高層住宅が建設されました。

2 あつぎの鎮守「厚木神社」と「旧烏山藩厚木役所」

(1)厚木神社の由来

円融天皇(969~984)の時代、藤原伊尹公により勧進されたと伝えられています。鎌倉時代には那須与一が眼病平癒祈願をした伝説や、江戸烏山藩の陣屋が設けられた事等から厚木草創期から郷民の安寧と、政治経済の中心として尊敬されたいことが伺えます。厚木神社の尊称は明治維新以後の名称であり、それ以前は牛頭天王と称し今でも一般にはお天王様と言われ、例祭には参詣の人々で大いに賑わいます。

明治6年(1873)に船喜多神社と熊野神社を合祀し、明治40年神奈川県により郷社に列格されました。(神社の案内看板より)

(2)天王まつり

正徳4年(1714)6月、天王社の正祭が盛大に挙行され、6日の午後、神輿が相模川中に入り禊(みそぎ)の行事が行われた。(これを水中渡御又は浜垢離も云)ところが行事中、神輿の扉が開いて過って御神体が河の中に落ち、行方不明となって終わった。

翌正徳5年5月の事、厚木村仲町の告原伊兵衛の霊夢により、その裏手の相模川河中に所在することが判明し、漁夫に依頼して天王社の御神体の丸石を探出し、伊兵衛方では御神体であるとして庭に木臼を出してその上に麦藁

を敷いて安置した。同年6月大祭に際して、御神体の還座式を挙行了たという。この行事の伝承が250年後の今も続いて、毎年厚木神社の祭礼には、この場所で神輿が休憩することを例式としている。

(3) 国道246号の拡幅と中央通り商店街防災街区整備後の祭り

昭和38年(1963)7月15日、本年中学通りの道路拡張と共同ビル建設で、神社の祭礼は盛り上がらない。牛車の神輿が裏通りを進み、子供みこしがその後続く、露天の店も少なく例年にないさびしさ、この頃から自動車の交通量の増加にともない大神輿の渡御も中止になった。

(4) 事業成功者から寄進石造物

昭和5年(1930)5月、御影石の狛犬1対の奉納の完成式が挙行され、夜は25座の神代神楽奉納で賑わった。

これは東京の平井為司氏の寄進になるものであった。

平井氏は天王町内田紙店の一族で内田薬店の先々代の平井姓を継承した家柄で、仲町の旧告原伊兵衛跡において玩具商として営業していた。

通称「玩具屋内田」と呼んだ。平井為司氏はその後、東京へ出て玩具問屋として成功し、この狛犬の寄進となったのである。

この設置の時はそのやぐらを組んでこの上から餅、祝銭、記念入手拭などをまいて振わった。

同じ年の3月吉日仲町に居住していた高橋敏三、難波浜三郎等により石鳥居近くに狛犬1対が奉納されている。昭和17年(1942)10月1日刻銘の石灯籠1対が、拝殿近くに奉納建設されている。

これは当時、満州へ出張し土工工事の請負をしていた高橋忠氏の外6名の寄進による御影石の大きなものである。

(5) 天王縄手(てんのおなわて)

相模大橋より一直線に西へ、戸室・恩名境へ通じる道路は、厚木大和バイパス(国道246号・129号のバイパス)が開通して国道246号が、それに移るまで、国道246号であった。

この道路は現在まで道路の名称が変わって来たが、古くは古代条里制を伝える唯一の道路であった。これを「天王縄手(てんのおなわて)」と呼んだ。縄手は暇とも書き、田間の道とも呼ぶ。

大縄をおおなわと呼び、海老名耕地が古代の条里制遺跡を伝え、旧国道246号は一大縄(いちおおな)と呼んだ、市内の水田地帯の旧小字を見ると所々に大縄又は大縄手・大縄橋などの名称があり、恩名(おんな)は大縄(おおな)の遺名であろう。

江戸時代まで呼ばれた天王大縄手は、明治9年地租改正後、北天王大縄手・南天王大縄手と改称され、現在も土地台帳にはこの字名が用いられている。この道路は道巾9尺(2.727m)、江戸時代には厚木宿を南北に通じる「矢倉沢往来」中央より分れて西に通じ、これを「大山街道脇往還」とも呼んだ。

明治35年4月戸室の丘に神奈川県第三中学(厚木高等学校)が開校すると、誰云うことなしにこの道路を「中学通り」と呼んで、高座郡方面の学生が歩いて厚木中学校に通ったものであった。昭和20年8月の終戦以後、西方

の水田の多い道路側にも次第に民家が建ち並ぶ様になり、その辺では「高校通り」と呼んだこともある。相模大橋の開通後、この道は拡巾され第二国道246号となり、中高層のビルの商店街が完成すると、この商店街を「中央通り」と呼ぶようになった。この道路の公式的名称は「天王大縄手」であり、その他は通称名である。

(6) 烏山藩厚木役所跡石碑 ～厚木村の支配～

烏山藩主城主大久保常春[延宝3(1675年)3月2日～享保13年(1728年)9月9日初代下野烏山藩主]の所領となるにおよび相州領支配(相州4郡39か村・鎌倉郡9か村・高座郡13か村・大住郡7か村・愛甲郡10か村)のため厚木役所が置かれ以来、明治維新まで百四十年間に渡り領内を支配支配をはじめ厚木宿の治安経済に関する行政が行われ宿場商家町の発展に大きな役割をはたしてきたのである。

明治維新後ここに郷学校「成思館」、愛甲郡役所、厚木町役場、厚木税務署、厚木小学校などが置かれ昭和30年2月1日厚木市制施行により厚木市役所となった。

昭和45年の新庁舎移転まで約250年間行政機関の所在地となった由緒ある所であることを厚木市史跡に指定するに際し、その大略を記して後世に伝えるものである。

昭和52年7月1日厚木市長石井忠重

(7) あゝ九月一日の碑 ～関東大震災記念碑～

大正12年9月1日午前11時58分激震あり火各処に起こり餘震間断なし、千八戸のうち全潰五百四十九戸、半潰二百八戸、焼失二百五十一戸に上り歿死二十八名、負傷六十四名を数ふ茲に一週年に方り死者の霊を弔い碑を建て其災害を記念す 大正13年九月 厚木町有志

(8) じょう橋

相模橋のことを言う。れっきとした名称がありながら庶民の思いにより愛称されたじょう橋。昔は渡船で渡ったが明治末期に常設橋が架かり、常に在る橋常に渡れる橋待望の橋そんな思いから自然に言い伝わってきた口マンを秘めた橋、現在はあゆみ橋

3 厚木の渡しと渡辺峯山来遊記念碑 ～江戸期交通の要所～

(1) 厚木の渡し(厚木市標柱)

相模川をわたるために設けられた渡船場で海老名市河原口とをむすび、五隻の船で往来していた。

(2) 厚木市指定史跡 旧厚木村渡船場跡 昭和36年10月21日指定

この地は、矢倉沢往還や藤沢道、八王子道が相模川を渡る渡船場で、江戸時代に刊行された『新編相模国風土記稿』の記述によると、常に5艘の船が備

えられ旅人に利用されてきました。

この渡船場の厚木側の権利は、厚木村と溝呂木家が持っていました。溝呂木家の本家の権利は徳川家康から与えられたものと伝えられています。天保2年(1831)9月、矢倉沢往還を通り、この渡船に乗って厚木を訪れた渡辺崋山は「厚木六勝」の図を残していますが その一つ「仮屋喚渡(かりかのかんど)」は、この場所を描いたものです。

明治41年(1908)相模橋の開通によって、この渡船場は廃止され、その役目を終えました。

令和3年3月 厚木市教育委員会

(3) 崋山来遊記念碑

所在地 厚木市東町堤防際

碑文 正面 渡辺崋山来遊記念碑

渡辺崋山は天保2年9月22日から数日当地に滞留しその繁盛に驚き厚木の盛んなること都とことならず家のつくりさまは江戸にかかわらず女男の風俗かわる事なしと游相日記にしている。

崋山39才のときである。このとおり彼は邑内(ゆうない)の風雅を愛する人たちを集めて歓談し需め(もと)に応じて厚木六勝を描いた。雨降晴雪(うこのせいせつ)、仮屋喚渡(かりやのかんど)、相河清流(そうがのせいりゅう)、菅廟驟雨(かんびょうのしゅうう)、熊林曉鶉(ゆうりんのぎょうあ)、桐堤賞月(どうていのしょうげつ)がそれである。

崋山来遊から130年、ことの忘れ去られるを慮り(おもんばかり)大略を記してのちに伝える。昭和36年春 厚木市長石井忠重識 武藤実書

4 国道246号道路整備と相模大橋新設

(1) 中央通り商店街防災街区整備の基盤となった国道246号道路整備

戦後、政府は昭和28年2月(1953年)米国と締結して日米行政協定による特別道路整備事業に重点を置いて実施し、この整備事業の一環として当時の厚木市中心市街地を通過する二級国道東京沼津線(現国道246号)厚木～山北間などが整備された。二級国道東京沼津線の路線上で厚木と海老名を結ぶ相模大橋が新設された。昭和30年(1955年)当時の橋梁技術の粋を集めた「相模大橋」完成。

相模大橋の新設も日米行政協定に基づくものであった。

(2) 相模大橋架設計画から開通に至るまでの経緯

戦後……昭和24年頃(1949)「中学通り商盛会」有志で結成。

中学通り商店街繁栄。

相模大橋……二級国道246号(旧矢倉沢街道)の整備に伴い相模橋に代わる新橋の架設が必要となる。

昭和28年(1954)相模大橋架橋位置、神奈川県が8案を厚木町に提示し、厚木町の意向を優先し決定すると伝えた。

8案のうちA案とB案に絞られ将来の発展と存亡をかけて意見主張。

上流案(B案)…渡船場、本町、元町通り(相模橋期成同盟会長内山基一)

本町・元町支持下流案。(A案と他一点)…①中学通りに接続、②厚木神社の南側→厚木小学校北側、A案(相模橋中央架橋期成同盟会長戸塚忠五郎)天王町・仲町・中学通り(大手町)支持

昭和28年10月8日(1954)

厚木町議会裁決

……相模大橋架橋位置問題 12対11下流A案(現位置)決定後、県に報告。

○中心地商店街が本町・天王町から中学通りへ移行(歴史上の分岐点)

11月10日相模大橋架橋位置問題(県議会裁決)厚木町議会で決定したA案満場一致で可決。

A案は中学通りに接続し橋の設置に伴う立ち退き家屋が他に案より最少で対応できた。(移転家屋等2軒相互銀行(中央通りに移転)元若松屋旅館跡の日産社員寮)

(3)相模大橋開通

昭和30年6月13日(1955)相模大橋開通

総工費3億7千万円、延長381m、幅員9mケルパー式近代橋わが国初の国産高張力鋼を用いた長径間鈑桁橋として有名。

鋼鉄桁橋としては当時わが国第一位。

設計には将来の自動車荷重の増大を見越して20tの自動車荷重を用いた。その細部にいたるまで土木の粋を集めた。

中央通り商店街(旧中学通り)、相模大橋開通により益々活気を呈する。

上流A案支持した本町商店街要望は老朽化により撤去される相模橋(じょう橋)に代わる橋として橋の架設を要望。これにより相模小橋(通称もぐり橋)が設置された。

(4)東京オリンピックと二級国道246号の整備

第一回東京オリンピック開催に当たり、昭和36年より厚木から松田町惣領に至る25.6km区間について、相模川に架かる相模大橋(拡幅)を含む11橋の橋梁架替・改良を進めるとともに重点的に道路改良及び舗装の新設を実施し、オリンピック開会式昭和39年10月10日の2カ月8月に完成した。

厚木市では二級国道東京沼津線中央通り改修工事を実施し現況幅員8.5mを幅員18m(車道12m、歩道片側3m)に拡幅と併せて中央通り商店街の防災街区建築工事を計画着工した。

5 中央通り商店街防災共同ビル商店街造成

(1)繰り返される大火災

昭和35年(1959)1月14日午後9時頃中央通り商店街中央部北側で5軒全焼・3件半焼の火災発生。当時の商店街の建物は木造家屋が密集し、道路幅員が8.5mと狭く、冬に空気が乾燥し北風にあおられ大火災が幾度か発生したため火災に強い商店街の造成が必要となり検討された。

昭和37年(1962)4月5日午後1時、中学通り東端から火災発生。4軒焼失。この2件の火災が中央通り商店街道路拡幅と中高層ビル商店街造成に進展した。

(2)防災建築街区造成工事・二級国道改修国道246号拡幅工事一体施工

昭和36年(1960)6月1日 防災建築街区造成法成立。厚木市と中学通り商盛会は国道246号拡幅を機会に防災共同ビル商店街造成を計画。

昭和36年8月厚木市は二級国道改修促進事務所開設。防災共同ビル造成のため工事実施中、各商店の一時移転先として商店街中央北側料亭末広裏に仮営業所建設、工事施工により順次使用。

昭和38年(1963)1月13日中学通り商店街造成工事開始 8か所ブロックに分割して順次工事施工。第一期工事(B、G)17軒移転。

又商店街の名称を「中学通り」から「厚木中央通り商店街」に改称

昭和39年(1964)4月1日 Aブロック6店完成。昭和40年(1965)11月6日 D・E・Fブロック完成。昭和41年(1966年)春H(7店舗)工事着工。最初のブロック着工から約3年の間に突貫工事で施工された。

6 本厚木駅北口周辺の再開発事業の概要

(1)厚木小学校移転後の跡地利用と再開発計画策定まで

戦後 厚木小学校移転計画	人口増加による校舎狭隘、敷地が厚木市の中心市街地・商業地に位置するため将来の開発計画の構想あり、県立厚木東高等学校移転後の跡地を県から市に払い下げをうけたことにより校舎移転計画される
昭和44年9月1日 (1969年)	校舎移転決定。厚木小跡地利用対策協議会設置。跡地利用計画素案作成。 計画案の跡地の中央部に福祉会館その北側に市民産業文化会館あり。その後D51SL公園となる。
昭和45年5月 (1970年)	校舎移転(寿町3丁目の現校舎へ)しばらくの間旧校舎残っていたが取り壊し。
昭和48年3月頃 (1973年)	厚木小学校跡地利用対策協議会(市民有志)市へ市民アンケート結果に基づく利用基本構想要望書提出。9月市は厚木小跡地と周辺の再開発基本計画発表。昭和53年完成を目標。
昭和53年7月頃 (1978年)	昭和53年完成を目標としていたが達成できず、改めて厚木市中町地区市街地再開発事業計画発表。(厚木小跡地周辺及び駅ビル再開発計画)この計画を基本にその後再開発事業着手

1 中町地区第一種市街地再開発事業完成記念碑(バスセンター内設置)

この事業は都市施設の整備商業施設の拡充及び公益施設の建設を目的とした市街地再開発事業として施行したものである。昭和61年3月厚木市

事業の概要:地区面積 約2.3ヘクタール 事業年度:昭和54年度～昭和60年度

施設建築物 厚木ガーデンシティビル 延床面積 3,700㎡

厚木シティプラザ 延床面積 11,500㎡

厚木セントラルハイツビル 延床面積 9,500㎡

都市施設

県道厚木停車場線 幅員18m 延長393m

市道厚木中町4号線 幅員12m 延長 90m

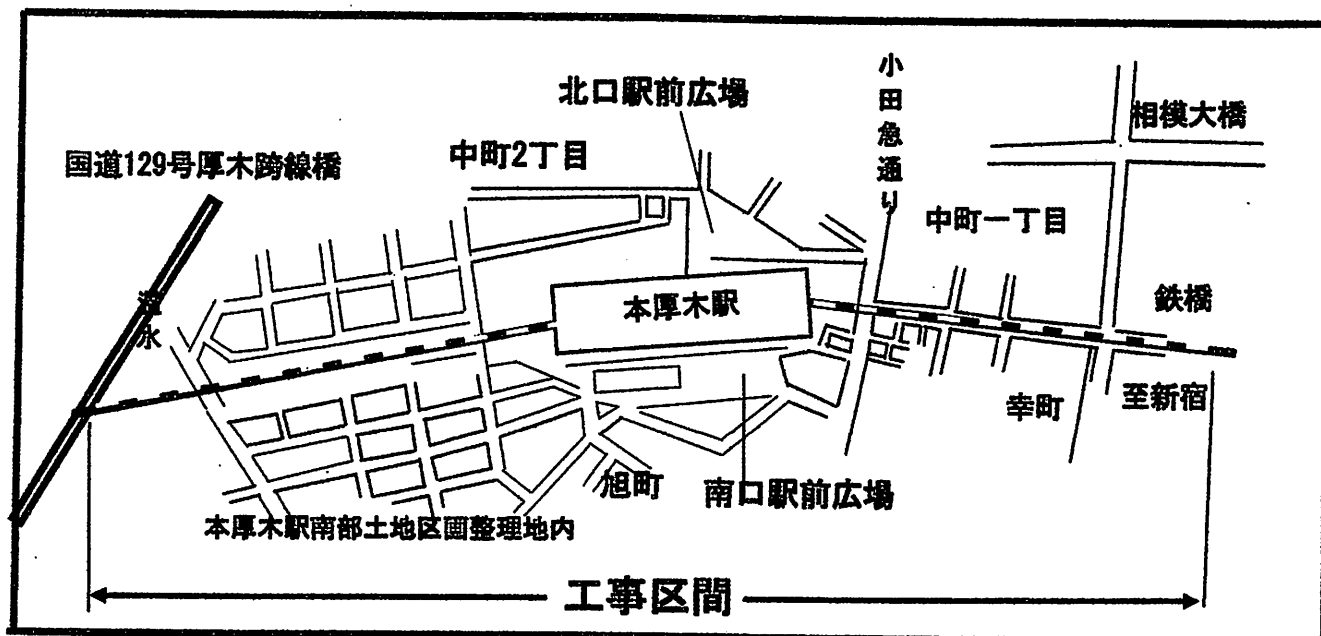
市道厚木中町23号線 幅員12m 延長 38m

市道厚木地下道中町線 幅員 8m 延長163m

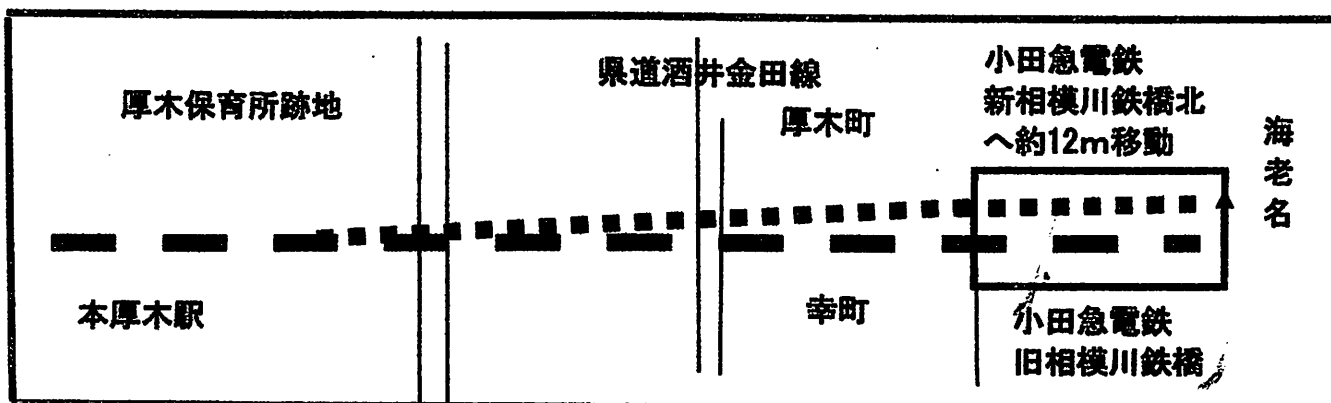
厚木バスセンター 面積5200㎡

厚木サンパーク 面積2500㎡

2 本厚木駅連続立体化事業実施区域図

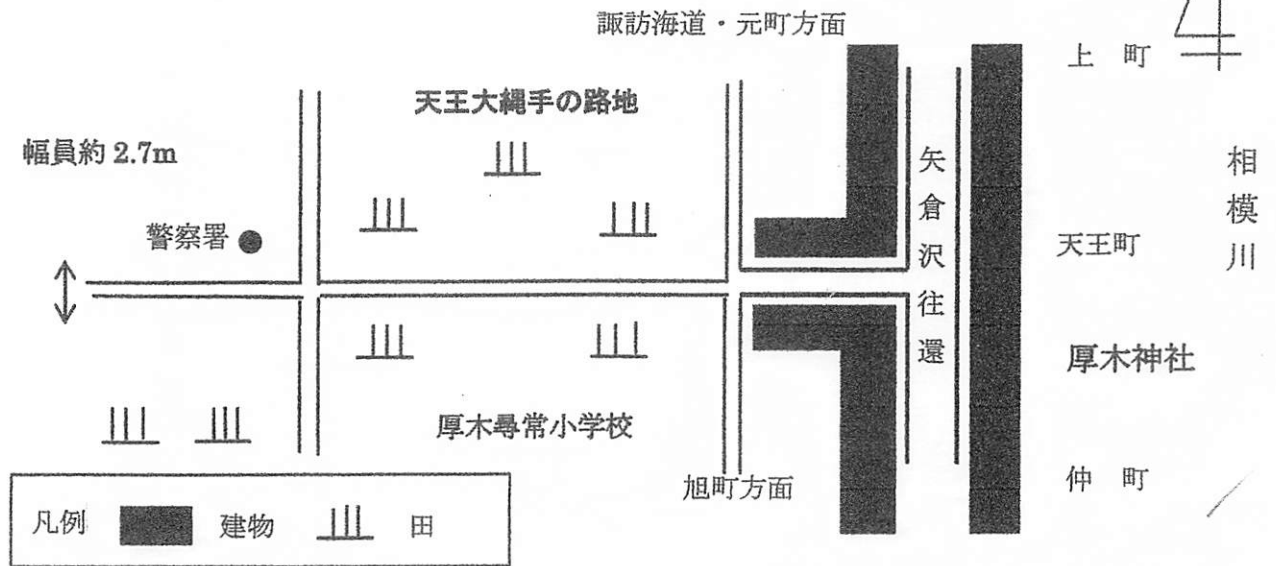


2 相模川鉄橋架替工事

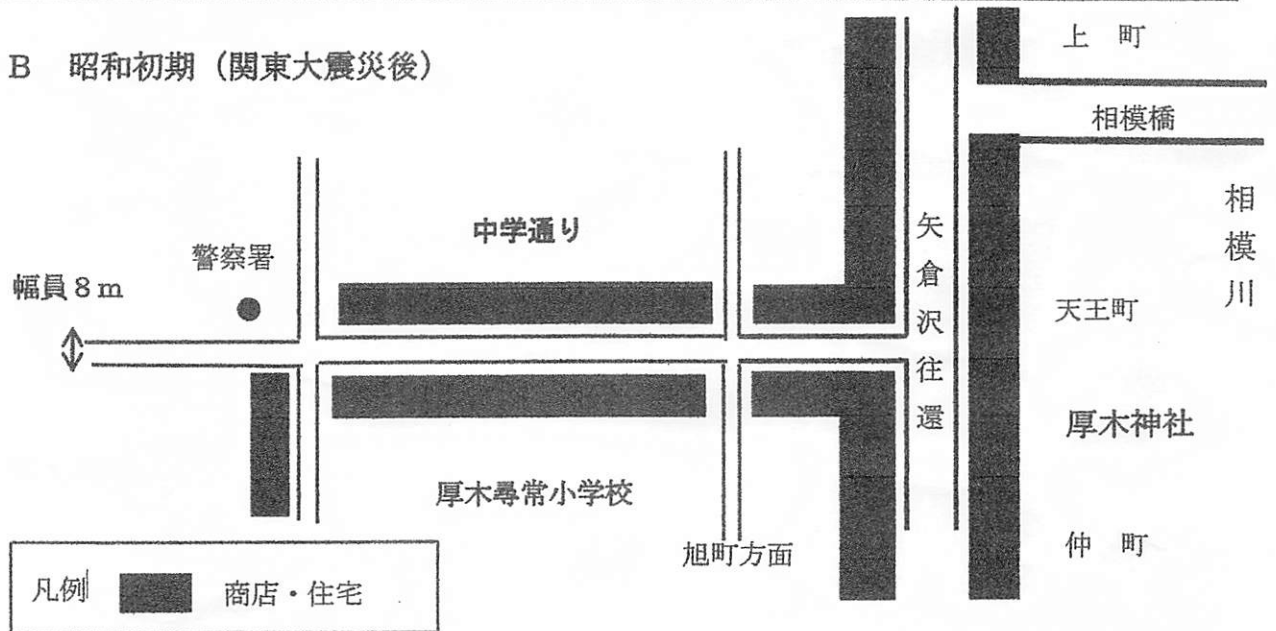


中学通り変遷図

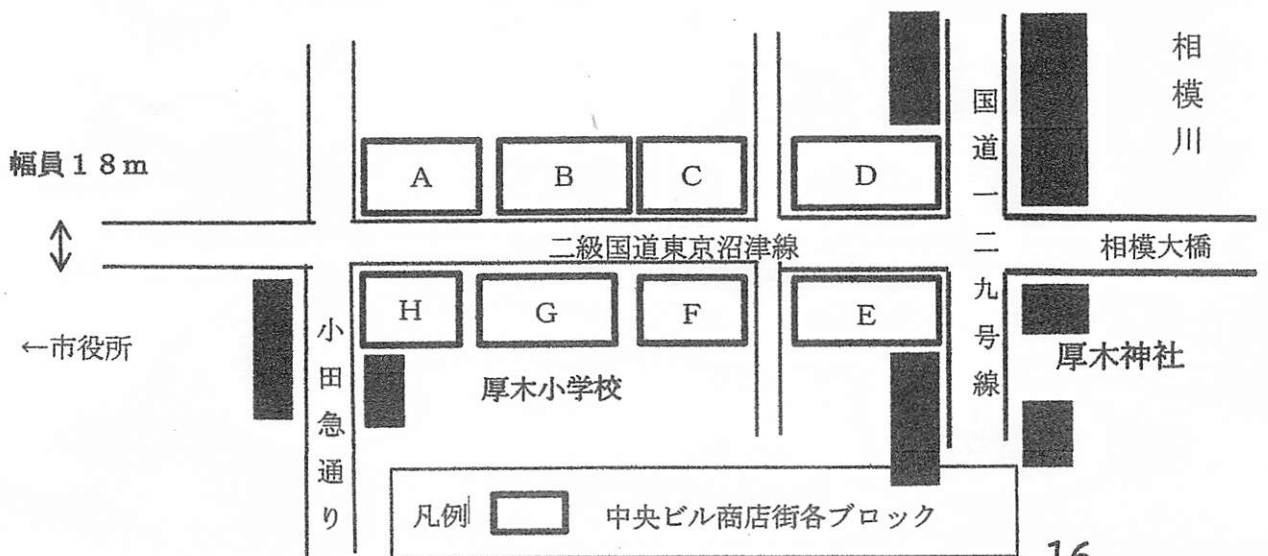
A 明治中期



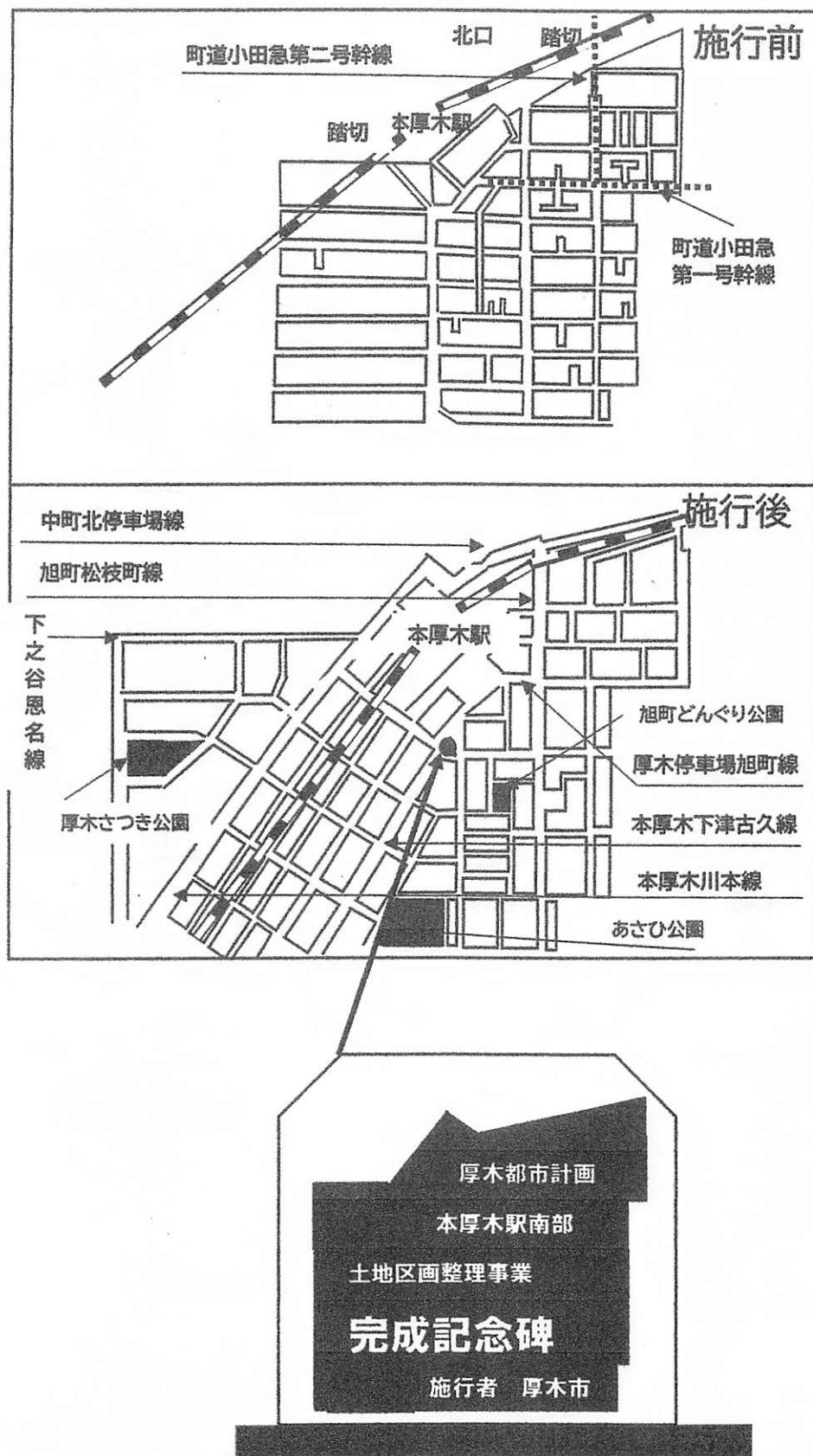
B 昭和初期（関東大震災後）



C 昭和40年代前期（厚木中央ビル商店街完成後）



本厚木駅南部土地区画整理事業施行前・施行後比較図



主な参考図書

- 厚木の商人 鈴村茂著 (株)神奈川情報社 1980年
 厚木神社の歴史 鈴村茂著
 厚木の昭和史 厚木市の昭和史編纂委員会・地域文化研究会
 厚木の石造物(記念碑) 厚木市教育委員会
 厚木市の再開発 平成元年・平成6年 厚木市